

## 世界大会参加者の組織化を急ごう 期待強まる今年の大会、海外から既に300人

2005年原水禁世界大会まで1ヶ月あまりとなりました。職場・地域で大会参加者を急いで決め、参加者を中心に運動を大きく盛り上げましょう。今年の大会は、核兵器のない平和な世界の実現のための最大の障害がアメリカの戦略にあることを明らかにし、核廃絶の国際秩序の確立と、国際共同の前進をはかる重要な意義を持つ大会です。又、NPT会議を受けて、草の根の運動の重要性が国際的にも明らかに

なり、日本原水協の果たす役割に世界各国から大きな期待も寄せられ、既に20カ国・300人の海外代表の参加も予定されています。日本原水協は運動を若い世代に継承させようと、積極的な青年の参加を呼びかけています。広島集会(開会総会)1万人、長崎集会(閉会総会)5千人の成功をめざし、岡山原水協は広島200、長崎60人の参加を訴えています。

### 7・25に赤磐平和行進 9条の会の準備も進む

赤磐原水協では今年も地域の生協のお母さんたちと7月25日に平和行進を行います。9時から瀬戸コース、10時30分から山陽コースにそれぞれ100人が参加予定。午後からは原水協独自に熊山、赤坂、吉井の各支所訪問と宣伝行動を行います。

7月7日には地域原水協として旧赤磐郡内の全自治体を訪問し、「折鶴」とカンパの要請を行います。これは、25日の平和行進で回収します。広島・長崎の大会には、県の要請数(5-1)を上回る参加を目指して取り組む予定です。また、平和委員会を中心に赤磐9条の会結成の準備が始まりました。7月6日には次の準備会です。「秋までには結成を」とがんばっています。



### 県内通し行進に中原(倉敷市職労)さん

平和行進は現在奈良県、30日には大阪へ兵庫を通り7月16日岡山に入ります。2人目の県内通し行進者

### 心算も検討中です 青年のみんな参加しよう

いま、世界中でたくさんの政府や自治体、平和団体が核廃絶に向けて行動しています。今年の世界大会にはフランスをはじめ世界各国から100人を超える青年が参加するなど、青年の運動も大きく広がっています。こうした世界の動きに答え、核兵器のない世界を青年の力で築く世論と運動、連帯を作ろうと「世界青年のつどい」が開催されます。つどいでは、被爆者の訴えも聞き、被爆の実相を直接学び、日本と世界の青年の反核運動の交流をします。「フランスから100人も来るなんてすごい!」「海外の青年と交流したい」と期待の声が寄せられています。平和を願う世界の青年とともに学び・交流することで反核・平和運動のひろがりを感じ、世界にアピールする機会になると思います。民青同盟では、青年バスツアーなども検討して、沢山の青年と一緒に参加しようと準備を始めています。一緒に世界大会、青年の集いに行きましょう

民青同盟県委員長

石村 智子

が決まりました。倉敷市職労書記次長中原徹朗さん(33)で、市役所では市道管理の仕事をしています。

